

NEWS LETTER

東日本大震災により被災された皆様ならびにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

平成24・25年度

近畿・北陸地方会

世話人代表選挙結果

2012年2月に近畿・北陸地方会世話人代表選挙が行われました。選挙管理委員による開票の結果、**上野栄一氏**（福井大学医学部看護学科）が選出されました。

任期は、2012年4月1日から2014年次回代表選挙までです。

（投票総数：461票、投票率：31.5%）



第25回近畿・北陸地方会学術集会在大阪大学で開催されました。

平成24年3月3日（土）に大阪大学保健学科棟での第25回近畿・北陸地方会学術集会は、春雨の間の晴れになり、盛会に終えることができました。寒さの厳しい中を、会員・非会員・学生を含めて200名弱の方が参加され、アンケートからも内容が良かったという評価を得ました。

世話人代表退任のご挨拶

近畿・北陸地方会世話人代表 阿曾洋子(大阪大学)

東日本大震災から1年が経ち、復興の声も少しずつ聞こえてきています。また、今冬は例年になく厳寒と積雪量でしたが、会員の皆様方はいかがでしたでしょうか。

さて、23年度の総会も会員の皆様方のご協力のもとに3月3日に無事に終了致しました。総会の議事につきましては、地方会のホームページをご覧くださいことにしまして、私が世話人代表として、何とか2期4年間務めさせていただき、24年度から新世話人代表として福井大学の上野栄一先生にバトンタッチを致します。

4年間の就任中には、世話人の先生方をはじめ会員の皆様方にご支援とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。この4年間は、東日本大震災が発生し、やむなく第24回地方会学術集会を中止したことや、本会が法人化されたことで、定款に基づく地方会運営が提示されることになり、通常では生じない変化に対応することが多々ありました。その一方で、本地方会の特色である看護研究継続セミナーの強化を図るために、開催場所を近畿地方と北陸地方の2か所に広げて、会員の便宜を図り、また地方会ホームページも充実し、それらうまく機能して参りました。これらはすべて世話人の先生方のご尽力によるものであり、深謝申し上げます。今後とも、上野世話人代表のもとさらに発展し充実してゆくことを祈念しております。ありがとうございました。

平成23年度 近畿・北陸地方会活動報告

近畿・北陸地方会事務局

新田紀枝・伊部亜希(大阪大学)

平成23年度は、事業計画通り、第13回・14回看護研究継続セミナーの実施、ニュースレターの発行を行いました。また、ホームページは会員の皆様の声が届きやすく、より活発な相互交流が可能なように、リレーブログを更新しました。さらに、富山での開催が中止となった第24回学術集会は、看護研究継続セミナーの開催に合わせ無事に演題発表を行うことができました。各事業をご担当いただいた先生方には、深くお礼を申し上げます。また、これらの事業は、会員の皆様の精力的な活動により支えられています。今後も会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後に、事務局を2年間務めさせていただきましたが、至らぬ点が多々ございましたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。本会が地域における看護の質向上につながり、更に発展されることを祈念しております。

会員の皆さまへ

第24回近畿・北陸地方会学術集会长 八塚 美樹
実行委員長 長谷川ともみ

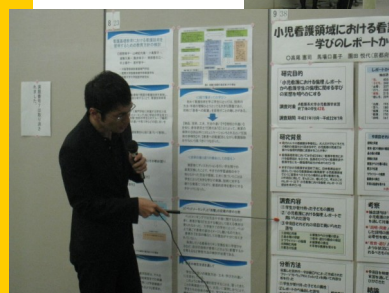
近畿・北陸地方会の皆様方におかれましては、ますますご清栄のことと心よりお喜び申し上げます。2011年3月11日、未曾有の東日本大震災に見舞われ、多くの方々の命や家屋が奪われました。被災者の方々に心よりお見舞い申し上げます。

2011年4月16日に第24回の近畿・北陸地方会学術集会の開催を富山で予定しておりましたが、世話人代表の阿曾先生はじめ諸先生方と様々相談させていただき、苦渋の決断として中止といたしました。第24回近畿・北陸地方会学術集会開催に際しまして、企画準備等に携わってくださった諸先生方に、この紙面を借りて深謝申し上げると同時にお礼申し上げます。また幸いなことに、看護継続セミナーご担当の先生方から近畿および北陸で開催される看護継続セミナーの場を借りてのご発表を提案いただき、近畿では京都府立医科大学にて17演題、北陸では福井大学にて11演題発表することができました。看護継続セミナーご担当の先生方のご尽力に感謝申し上げますとともに、無事第24回学術集会が開催されましたことに深くお礼を申し上げます。



阿曾世話人代表の挨拶

第24回学術集会
研究発表風景
(京都府立医科大学)



日々の実践をデータで示そう

井上 智子(大阪大学)



セミナーでは「日々の実践をデータで示そう」のテーマで、ここ数年私たちが取り組んできている静脈穿刺と輸液管理に関する研究の一端をご紹介します。

現在、多くの病院で電子カルテが導入され、看護実践についても観察事項や実施内容が電子化して記録され、随時データとして取り出すことができるようになってきています。しかし、それぞれの行為に係るアセスメントの部分を記録したり、実施に至るまでの過程をデータとして残したりすることは少ないのではないのでしょうか。

たとえば指示された輸液を始めるために、血管内留置カテーテル針を用いて静脈穿刺を行う場面を思い浮かべてみて下さい。あなたは輸液の目的、薬剤、期間を考慮しながら解剖学的知識を踏まえ、血管の「太さ、走行、弾力、硬さ」などを判断して最適な血管を選定し、針を穿刺・留置して輸液を開始します。適用薬剤と開始時刻は記録されますが、あなたが行った血管のアセスメントはデータとして残されません。1回の穿刺では留置に至らず、2回、3回と穿刺を試みることもあります。この場合、成功しなかった穿刺は記録されません。



先行研究から訓練することで穿刺・留置成功率は上昇し、血管のアセスメント状況と穿刺・留置の成否には関連性があることが分かっています。1回の穿刺でカテーテル針が留置できても、滴下不良や閉塞、皮下漏れや静脈炎などで抜去した場合は「留置成功」とはいえません。安全な輸液管理の観点から、穿刺回数とその成否、輸液実施中の観察記録が必要となってきます。

このように、日々の実践をデータ化する試みの中から看護の質を向上させる方策が見出され、その方策を取り入れながらデータ収集することによって、実践が観察研究へと発展していきます。毎日の仕事を振り返り、データ化されていない行為を洗い出してみてください。さまざまな研究の種が見出されると思います。

●会員投稿 私の研究を支える地方会活動～看護研究継続セミナーを受講して～

西山 忠博(仁明会病院)



昨年、しばらく遠ざかっていた研究を再開しました。しかし、いざ始めてみると、大学にいたころとは違い、臨床での研究には環境面で様々な制約があることを痛感しました。特に私の場合、修士課程で培った実験的な手法も研究に取り入れたいと思いましたので、計測機器や分析といった面での問題が大きくなりました。そこで、以前に看護研究継続セミナーで交流した先生に連絡をとって見たところ、快く相談に乗っていただき、研究の支援もしていただけることになりました。こうした交流ができたのも、会員同士が同じ地域で活動している地方会があったからこそであり、学会での交流の大切さを感じました。

私は現在、精神科病棟の光環境と患者の睡眠・活動との関係について研究しています。今後も精神科看護、基礎看護の両方の視点からの研究を進めたいと考えています。そうした時、指導して下さる先生や研究室の学生さんたちとの交流は私の大きな力になっています。そして、やはり研究は色々な人に支えてもらって初めてできるものだというを実感しています。ですから、臨床で研究をしてみたいけど…と考えている方は、近畿・北陸地方会の学術集会や看護研究継続セミナーに参加して、これはと思う先生に思い切って相談してみることをお勧めします。また地方会は、是非とも臨床での知を深めるために、会員が相談しやすい環境をさらに整えていただければと思います。

●看護継続セミナー研究助成事業費受給者の活動報告

つながる看護研究

菅野 典子(大阪警察病院看護専門学校)

第24回近畿・北陸地方会学術集会の富山での開催予定が、思いもよらぬ東日本大震災が起これ、京都での開催へと変更になりました。被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

今回、看護継続セミナー研究助成金を受け、「看護基礎教育における看護技術を習得するための教育方法の検討」をテーマに研究をし、地方会学術集会で発表させて頂きました。

研究のきっかけは同僚の先生を通じて知り合った先生方との集まりでした。大学、専門学校と立場の違いはありましたが、看護基礎教育に携わるものとして「学生に何をどう伝えていくべきか」と毎回熱い議論を重ねて参りました。そのような関係性があったからこそ、3校の学校が集まり、同時に演習を行うという画期的な試みが実現したと思っています。多くの学生が自主的に参加し、他学生との交流は良い刺激になったようです。

演習後には共同研究の先生方と合宿をし、話し合いを重ねました。そこでは研究以外での情報交換もあり、非常に思い出深い1泊2日になりました。学会発表を終えて、このような体験は次の研究意欲につながる大きな力になると実感しております。今回、看護継続セミナー助成金を頂き、このような研究の機会を与えて頂いたことに深く感謝申し上げます。

一般社団法人 日本看護研究学会
近畿・北陸地方会事務局

〒565-0861 大阪府吹田市山田丘1-7
大阪大学大学院医学系研究科
保健学専攻内
電話&FAX:06-6879-2535
E-mail:norien@sahs.med.osaka-u.ac.jp
新田紀枝・伊部亜希

第13号のニュースレターは、「地方会活動と会員の『絆』を強める」をテーマに作成しました。今後も会員の皆様の活動をお知らせすると共に役立つ情報をお届けしていきたいと思っています。皆様のご意見、ご感想並びに投稿をお待ちしています。

(ニュースレター担当:

滝下幸栄、田村葉子)